

## 福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（4月分）

留学先大学：貿易大学

氏名：小泉春樹

4月の頭から5月の末頃まで、前期に取る授業の関係で休みができた。約2か月。やらなければいけないこともない日々。もし何もしなくていい、何をしてもいいと言われれば、何をするだろうか。

虚無だった。振り返ると、生産性のかけらもない日々を送っていたように思う。人生で初めてだった、本当に何もしなくていい日々がこんなにも続くことは。お金を貯めるために究極の節約生活をしていたこともあって、もちろん旅行にも行けなかった。だいたい一日一食。そしてたまに食材を買いに外へ出る。本を読んだり、ゲームしたり、海外ドラマを見たり。この1か月の多くはそんな日々だった。

しかし、すべてがそんな日々でなかったことも確かだ。

いくつかの小さな挑戦などもあったが、それとは別に、ベトナムの学生団体の活動に週1のペースで参加したことが、のちの自分に温かいものを残してくれている。

先月（3月）にできた友達が、越日学生会議という団体のメンバーで、その友達に誘われて活動に参加したことがきっかけだった。その団体はベトナムの学生だけで構成されており、JICAの支援を受け、ベトナムと日本の架け橋となることを目的としている。具体的には、文化交流会、ホームステイ、ベトナムにある日系企業工場への見学、ハノイの観光地へのツアーなどを通して、ベトナムにいる日本人とベトナム人を繋げている。

彼らの日本語レベルは、N5からN2と幅広い。日本語ができなくても、英語ができる子もいる。そんな彼らと、毎週のようにハノイの観光地に行った。行く先々でともに楽しい時間を過ごしながら、異国の地にできた繋がりが日々温かさを増していくことを感じていた。日本にいたころに比べると、一人でいる時間がやっぱり増えていたベトナムでの生活。人との温かい繋がりが余計に尊く感じられた気がした。

そしてこの頃から、帰国する日を想うと少し寂しくなるようになり始めた。